

南山大学創立 75 周年 記念号に寄せて

南山大学長 ロバート・キサラ

この度、南山大学創立 75 周年記念号への挨拶文を書かせていただく運びとなりましたことを嬉しく思います。昨年度は、パンデミックに伴う様々な制限はありましたが、南山大学の前身である南山外国語専門学校の設立に遡り、大学創立 75 周年を盛大に祝いました。記念式典の場で、私たちは大学の歴史を振り返って、創立の意義を再確認しました。1946 年、戦争直後の混乱の中で、世界の舞台で活躍する人物を育てるべく日本の国づくりに貢献するため、アロイジオ・パッヘ師が南山外国語専門学校を設立し、その校長となりました。その翌年に施行された学校教育法に基づいて、1949 年に専門学校から大学へと発展し、南山大学が生まれました。大学誕生を記念する「大学開学式典」において、後に南山学園の教育モットーとなる「人間の尊厳のために」が発表され、南山での教育の目的がここに明確となりました。

専門学校から大学に昇格した当時、文学部は唯一の学部で、英文学科、仏文学科、独文学科、中国文学科のみが設置されました。しかし、創設時から既にパッヘ師は総合大学を目指しており、1960 年代に経済学部と経営学部が増設され、また 1977 年には、第 3 代学長ヨハネス・ヒルシュマイヤー師の主導のもとに法学部が設置されました。『南山大学 75 周年史』にも記されているように、新設された法学部は南山大学に相応しく、国際性豊かな特色を持ち、また「人間の尊厳のため

に」という大学の教育のモットーを実現するために、法哲学を中心とする基礎法学の研究・教育が強調されました。

昨年度の大学創立 75 周年に引き続いて、本年度、法学部は設置 45 周年を迎えました。国際性と人間の尊厳の推進という大学全体の二つの特徴に大いに貢献している法学部の更なる発展を願い、挨拶とさせていただきます。

2022 年 11 月 30 日